

## 講演会聴講報告 (2024/7/2)



1959年 長野県生まれ、栃木県育ち  
1983年 奈良女子大学 理学部 物理学科卒  
(株)富士通ソーシャルサイエンスラボラトリーにて、14年に亘り  
人工知能(AI)の研究開発に従事した後、  
コンサルタント会社勤務、民間の研究所を経て、  
2003年 (株)感性リサーチを設立、代表取締役就任。  
2004年 脳機能論とAIの集大成による語感分析法『サブリミナル・インプレッション導出法』を発表。サービス開始と同時に  
化粧品、自動車、食品業界などの新商品名分析を相次いで受注し、  
感性分析の第一人者となる。

7月2日(火)、加古川市総合福祉会館大ホールで開催された東播臨海精神保健協会主催の講演会を聴講しました。「人生に効く脳科学～脳が創り出す男女の溝、人生の波～」と題した人工知能研究者、随筆家黒川伊保子氏の講演でした。「妻のトリセツ」を皮切りにたくさんの「トリセツ」シリーズの本を出している著者の人気ぶりを証明するかのように、平日の講演会にも拘わらず定員300人の会場がほぼ埋まるくらいの盛況ぶりでした。

内容は表題の通り、男女で脳の働きが両極端なほど異なる理由を脳科学の見地から説明したり、それに伴うコミュニケーションギャップについて実例を挙げながら面白おかしく解説したりしていただきました。身につまされることが多く、夫婦円満な家庭を築くためにさっそく実践しなければと思いました。今まで名前だけは耳にしていたものの著作を読んだことがなかったので、これを機会に講師の本を購入して勉強してみようと思いました。

この有意義な講演会に招待していただいた佐治副会長に感謝します。

24期生 原田文昭